

# すくすく249



札幌市立はまなす幼稚園

研究主題 質の高い幼児教育の実現に向けて ~つながる ひろがる 札幌市の幼児教育(研究実践園共通)  
研究副主題 「一人一人に寄り添い、共に育ち合う集団づくりのために」(西区・手稲区共通)

## ~はまなす幼稚園のユニバーサルデザイン!~

今年度ははまなす幼稚園では、~はまなす幼稚園のユニバーサルデザイン!~と題し、様々な考えや個性をもった幼児が共に生活し、共に育ち合うための援助と環境の構成について考えてきました。私たちが考えたのは、『共に生活することの日常化』。園内では日々様々な営みが繰り広げられており、誰かが誰かを気にしながら、気にされながら生活しています。その日常こそがユニバーサルデザインの本質なのではないでしょうか。一方にとって都合がよくて一方にとっては都合がよくないこともあります。その中で自分のよさを知り、互いのよさを認め合うことで、人と関わることの心地よさを知り、社会の中で自分の力を発揮していける素地を培っていくことができるのではないかとこのことを確認し合いました。

## 研究を通して分かった『共に心地よく生活するための援助と環境の構成』

教師の同僚性が全てを支える

~幼児一人一人をより理解し、援助をするために~

### 誰が援助の中心かを焦点化!

A 児にとってのよい援助が B 児にもよいとは限らず、他の援助が必要である可能性もある。一つの遊びを様々な角度から見て、今誰に焦点を当てるかを明確にする。

共に過ごすことの  
価値付け!

教師や保護者、友達が一人一人の役割に気づき、価値付けていく。



心地よく共に過ごすための  
雰囲気づくり!

教師が様々な幼児への関わり方の見本となり、心地よい雰囲気づくりをする。

個々の実態に合った援助

ユニバーサルデザイン

<UD 的視点からの幼児の育ち>  
自分以外の他者を知る!  
自分のよさを知る!  
視野の広がり!

# はまなす幼稚園の UD! 共に生活することの日常化

あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることのできるようになるための基礎を培うこと(幼稚園教育要領前文より抜粋)

今年度は、一人一人が自分のよさを発揮して生活するために、事例を通して活動を様々な角度から話し合いました。その活動は誰にとってどのようなよさがあるのかの検証を積み重ねることで、共に生活するために必要な援助や環境の構成を探っているところです。はまなす幼稚園のホームページの「研究・研修」をクリックいただきますと、年齢や場面に応じたいくつかの事例があります。下記は、事例の一部を抜粋したものです。詳細はホームページからぜひご覧ください。



## 事例：年長5歳児『カイコの飼育場面から』より一部抜粋

年長5歳児

糞からお茶や染め物ができると知り、他学級へ「ウンチください。」と思いを伝えに行き自分の知っていることを伝えようとする。重さを量ったり、集めたりすることを楽しむ。



年中4歳児

- ・糞を集めていると聞き、毎日張り切って年長組に届けに行く。
- ・「何g集まった」という話や量りに興味をもって見る。
- ・ぞう組のカイコが糸を吐いたことを知り学級のカイコをよく観察する。

### 共に育ち合うカイコ!

- ★成長の変化が分かりやすい
- ★触れるようになって自信に!
- ★各学級で飼うことで見比べて発見!
- ★数、重さ、大きさに興味が広がる
- ★自分なりの発見、間違えがない
- ★他学年との交流が自然と生まれる

年少3歳児

虫にあまり興味がない様子だったが、ぞう組が大切にしている姿を見て、大切にしたり、可愛く思ったりできるようになった。

### <ユニバーサルデザインワンポイント!>

正解がない! 育てるだけじゃない楽しみ方もあり、遊びが様々な方向に展開される! いろいろな子どものいろいろな方向からの気づきを見取り、援助する。



## 本園研究アドバイザー 内田千春先生より 研究について、アドバイスをいただきました!



一人一人の子どもが、あるがままの自分が認められていると感じながら共に生活するには、まず教師がそれぞれの『よさ』に気づくことが必要です。はまなすの先生方は、事例を持ち寄ってはその場面での一人一人の子どもをどうとらえているかを語り合い、まだ見えていない様々な『よさ』を探していきました。子どもの行動が『よさ』として認識されるとき、これまで繰り返されてきた行動から新たな遊びの展開が生まれました。いろいろなおもしろさや、たくさんの不思議を体験できるのは、お互いの存在があるからなのですね。